

桜島昭和火口から 2012 年 9 月 24 日に噴出した火山灰粒子

< 概要 >

2012 年 9 月 24 日に桜島昭和火口から噴出した火山灰試料の粒子は、発泡したガラス片、緻密なガラス片、結晶片、溶岩片、変質岩片からなる。前 3 者は新鮮で、マグマ由来である可能性が高い。発泡したガラス片の含有量は数%程度で、最近の噴出物と比べ、大きな変化はない。

< 記載 >

桜島火山は 2012 年 9 月 24 日 12 時 52 分に爆発し、昭和火口から噴煙が海拔 2500m まで上昇し、上空の風で南西に流れた。大きな噴石は 3 合目まで飛来し、瀬戸で 187Pa の空振が観測された。試料は同日、鹿児島地方気象台によって野尻の砂防センターの向かい側で採取されたもので、同噴火による降下火砕堆積物である。

試料は径 1mm 以下の火山灰粒子からなる。構成物は発泡したガラス片、緻密なガラス片、結晶片、溶岩片、赤色酸化溶岩片、変質岩片である（図 1）。発泡したガラス片は白色～褐色半透明で、発泡痕に囲まれる（赤円で囲んだもの）。緻密なガラス片は褐色～黒色半透明で、破断面に囲まれる（黄円）。細粒の不透明鉱物を多く含む。結晶片は単斜輝石（紫円）、斜方輝石、斜長石、不透明鉱物からなり、鋭利な破断面で囲まれるものが多い。これらはいずれも新鮮であることから、噴火に直接関与したマグマ由来である可能性が高い。溶岩片は灰色不透明の安山岩溶岩と赤色酸化したものがある（青円）。変質岩片は白色不透明で、ガラス質岩片が高温で脱ガラス化したものと思われる。溶岩片および変質岩片は既存の山体に由来するものであろう。

発泡したガラス片の含有量は数%程度で、最近の噴出物と比べ、大きくは変化していない。

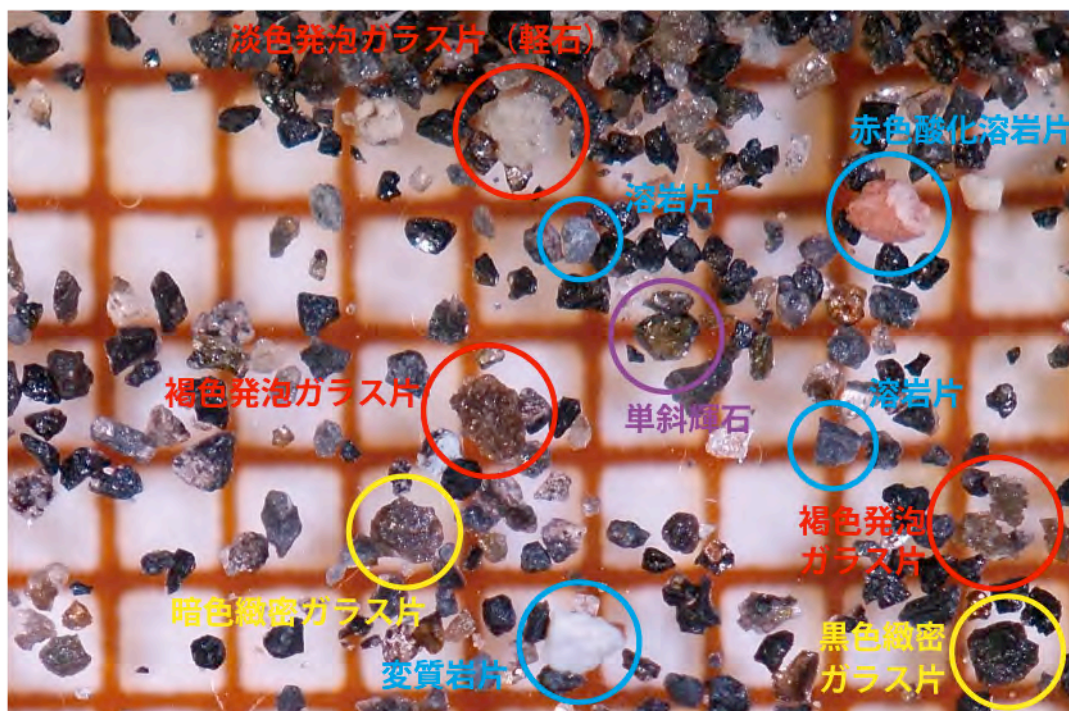


図 1 2012 年 9 月 24 日火山灰試料の鏡下像。背景グリッドは 1mm 間隔